

我很庆幸，在社会工作发展如此贫乏的中国，我能有机会真正的体验了一次实际意义上的团体小组工作；我很庆幸，在这一年的秋天能够认识这么多的日本朋友，中国朋友；我很庆幸，自己的思绪翻滚又归于平静；我很庆幸，这次工作坊让我成长。

4

感想**商情情（南京師範大学心理学）**

南京大虐殺のワークショップに参加して、2007年の会議に参加したことのある方たちの話に耳を傾けていました。まず村本邦子さんの発言がありました。彼女は臨床心理士で、家庭内暴力や性暴力と虐待などをさかのぼると戦争が関係していると考えます。だから彼女は、現代の暴力はまず戦争での暴力の記憶のトラウマを癒さなければならないと思っています。その考えは、私にとってはとても新鮮でした。その他に私を大変感動させたのは、2年前の会議に参加した2名の日本人の発言です。彼女たちは心の奥底の気持ちを話してくれました。彼女たちは、小さいときから南京大虐殺の話聞いたことがなく、彼女らの家族もみんなこの話題から避けていたようです。彼女らが中国へ来て、こんなに証拠を見たあとに、自分の大好きな祖父が殺害者であるかもしれないことは、どうしても信じられないと思います。相当大きな恥じらいが彼女らを長期間に渡り、不安にさせたと思います。

私はこれまで日本人の南京大虐殺に対する意見を聞いたことがなかったのですが、今日彼女たちの本当の気持ちを聞くことができ感動しました。私はこれが日中友好を強くする意義があると思いました。彼らはどうして逃げるのでしょうか？

幸存者の方の証言を聞きました。おじいさんは朝2時間バスに揺られてやってこられました。彼は今年83歳ですが、とても元気そうに見えます。おじいさんは気持ちをたっぷりと込めて、つらかった話をして下さりました。9歳の

とき、日本軍に家族を殺害された経験を目に浮かべるかのようにしておられました。私達は彼をここに招待して講演してもらいましたが、非常に気の毒に思えました。日本人に銃剣を突き付けられても家族を守り合う愛を感じ、暖かさを感じましたが、日本兵の行動に私は怒りを隠せませんでした。最後に私はまたおじいさんの寛大な心に感動させられました。彼は日本の長崎へ行って原子爆弾で傷ついた人の事を見てきて、日本人も被害者なんだと意識したと言われました。彼は日本人にあんなにひどいことをされて恨んでいるのに、日本の一般の人には罪がなく、彼らも中国人同様罪がない、日本人も苦痛なんだと言います。おじいさんが望んでいるのは平和、戦争を世界からなくすこと。戦争は最大の敵である。これは南京大虐殺について認識させられました。私もおじいさんの話に深く感心させられました。彼の家族は日本人に殺害されましたが、しかし日本人に対して友好的で、しかも日本人を理解し、心広く日本人を受け入れられ、この考えは本当に勉強になりました。多くの日本の方がおじいさんの話を聞いている時、激しく泣いているのを見かけ、私も彼らの悲痛を感じ、心の底からここにいる日本のみんなを許そうと思いました。何故ならおじいさんはこう言いました。彼らは間違っていない、中国に来て悪さをしに来たんじゃありません。彼らはみんな良い子ばかりで、恥と苦痛を背負う必要はないんです。

午後はまず一人1分間ずつおじいさんの話に対してフィードバックをしました。私はおじいさんに対して言いました。「おじいさん、あなたの心の傷口が、また開いてしまうのではないか気がかりです。あなたの願いと信念を信じ、私達も努力してこの話を次の世代に伝えていきます」と。

Armand 教授の指示で、そのあと人間彫刻をしました。5つの小グループでみんな自分の気持ちや感想を彫刻にしました。私達のグループは5つのシーンを描写し、一つの劇を作り上げました。

これらを通して、私は自分の心をより明確に表現できるようになりました。それはつまり、この数日間でいろんな演技をして本当の自分を出し切りました。前まで私は受け入れられない世界がありましたが、ただ自分が努力したら受け入れられるんだと分かり、びくびく恐れないで生きていくんだと。Armand 教授はみんな平等にみてくれます。全員に話す時間をくれて、全員を受け入れて

くれます。私はこのメンバーの一員なんだと思うと嬉しくて、この世界のためにどんなことができるか、と一層強く思いました。

私達は燕子磯公園へ行き、日本人と中国人の二人ひと組で階段を上り、記念碑でお祈りしました。深い悲しみを思いました。それから日本の方が、みんな記念碑の前で号泣して長い時間ひざまずいて起き上がらなかったのを私達中国人が見守りました。日本の方も思う存分、各自の思いを伝えてきたようだったので、みなさんも安心されたかと思います。彼らにはすごい勇気があるなと思いました。それから揚子江に今までの過去の自分の考えなどを放ち、新しい自分を歓迎し、自分自身、自信も持て、明るくなったし、心も広くなったと思えました。

大学に戻ってきて、粘土で自分の気持ちを作り上げました。みんなの作品には平和や希望が詰まっていて、この数日間で変化があったのを目に見て分かりました。

1日目の絵から2日目の彫刻、そして今日の粘土を合わせて、平和と希望をたくさん作り、安心感などを手に入れました。私の作品は、1足の大きな靴が1つのリュックサックを背負っています。題名は「使命」です。過去の戦争の事実と記憶を背負って、この数日間で理解という道を歩みました。新しい感じと理解があり、おじいさんの信念と願いがあり、それをリュックサックというものに表し、それを連れて未来へ向かって歩く、それを靴で表し、一種の使命なのです。

私は自分の人格が、心理学や歴史、政治の問題から成長したと思っています。波が荒れ狂うような体験もしましたが、最後まで穏やかでいられたのはArmand教授のゲーム式の治療のおかげでしょう。この治療法には、非常に不思議な作用を持っていると思います。言葉の壁があっても、イライラなどの感情を流すことができるし、Armand教授は本当に魔法使いのような方です。

Armand教授は、私達に物語を作らせました。むかしむかし、日本人と中国人が一緒に旅行へ出かける話です。私は張連紅先生と一緒に、こんな話を作りました。

むかしむかし、一人の日本人と中国人が出会いました。私達はちょうど同じ場所へ行こうとしていたのですが、彼が日本人ということを知っていたので嫌

でした。しかし、やはり一緒に同じ目的地まで歩きました。その途中に一匹の火を噴くドラゴンに出会い、一緒に協力してドラゴンと戦ってから、お互いを信用して友情を深めました。更に一つの丸太を見かけました。あまりに橋が狭いので、私達はどちらも先に橋を渡りたくないのです。後の人が悪だくみをしたら、川へ落ちるかもしれないし、お互い譲り合っていました。

私は先に橋を渡り、安全を確認しました。このように、また信用を重ねました。それから私達は老夫婦に出会いました。老夫婦は本当にお年寄りで、90歳くらいです。しかし彼らは私が日本人だと知ると驚いて倒れてしまいました。それから私とその夫婦の世話をしたら、意識が回復しました。私のことを良い女の子だと言って、夫妻は私達を受け入れました。

それから向こうの景色が美しいのを発見したので、私達はそこで永住することにしました…その村で私達は、また老夫婦となりました…

感受

商情情（南京师范大学心理学）

参加了这个关于南京大屠杀的工作坊，倾听了会议的组织者及07年参加者的一些发言。首先是村本邦子的发言，她作为一名临床心理师，在总结多年临床经验的基础上认为家庭暴力、性暴力和虐待行为等等都可以追溯到集体性暴力——战争。因此她认为要想防止现代暴力得首先从矫正战争等集体暴力的记忆创伤开始。这给了我一个很新的视角来防止暴力的延续。另外让我颇为感动的是两年前参加会议的两名日本人的发言，她们发自肺腑的诉说上次与会的感受。她们从小没有听说过南京大屠杀，即使有也是零星的，因为她们的家人都回避这个话题。当她们来到中国，看到了这么多的证据之后她们怎么也无法相信自己慈爱的祖父会是个杀戮者。她们因此陷入巨大的痛苦当中。巨大的羞耻感涌上心头让她们久久无法释怀……

我从来没有听说过日本人对南京大屠杀的看法，今天听到了她们那么真切的情感我感到非常感动，我想这对于加强中日理解是非常有意义的。

听幸存者证言。常大爷早上坐两个小时的公交车早上赶过来，他已经83岁了，